

認定品種候補 六条大麦「さちかぜ」(関東皮 102 号)の品種特性

埼玉県農業技術研究センター

1 品種の概要

(1) 来歴

- ・ 「さちかぜ」(関東皮 102 号)は、2008 年、作物研究所(現：農研機構 次世代作物開発研究センター)において、「関東皮 86 号(後の「カシマゴール」)を母親に、「関東皮 74 号」を父親として交配した後代から育成された。現在、品種登録出願中(平成 30 年 12 月出願公表)である。

(2) 品種の特性(「すずかぜ」と比べて)

- ・ 出穂期は 6～8 日、成熟期は 3～4 日早い。
- ・ 稈長は長く、穂長は短く、穂数は多い。
- ・ 千粒重は重く、整粒歩合が高く(篩下が少ない)、収量が多い。
- ・ 外観品質はやや優れる。
- ・ オオムギ縞萎縮ウイルス I、II、III 型に極強である。
- ・ 実需者による試験焙煎の結果、麦茶加工適性は「すずかぜ」と同等である。

2 普及性

- ・ 普及地域は「すずかぜ」の作付地域(熊谷市、深谷市、行田市、坂戸市等)である。
- ・ 麦茶の加工適性について、実需者による製品用実機で焙煎試験を行うための麦を現地で栽培中(1ha)である。
- ・ 実需者の評価を得ながら「すずかぜ」からの転換を図る。

3 栽培上の留意点

- ・ 「すずかぜ」より出穂が早く、播性程度が I(低温感受性が低い)であるため凍霜害防止のため極端な早播は避ける。
- ・ 「すずかぜ」より長稈であり、倒伏を避けるため極端な厚播や多肥を避ける。

4 具体的データ

表1 奨励品種決定調査成績(農技研玉井試験場、現地)

試験場所	品種名	肥料条件	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	うどん こ病	赤か び病	整粒重 (kg/a)	同左 比率 (%)	整粒 歩合 (%)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	外観 品質	加工 適性
農技研玉 井試験場	さちかぜ	標肥	4.04	5.18	95	3.9	564	0.4	0.0	0.0	70.9	117	97	751	31.9	4.3	0.8
	すずかぜ		4.10	5.21	81	4.0	462	0.0	0.0	0.0	61.8	100	88	701	30.3	5.3	0.5
	さちかぜ	多肥	4.03	5.17	89	4.0	623	1.3	0.0	0.0	65.8	102	96	745	31.4	4.5	—
	すずかぜ		4.09	5.21	79	4.4	473	0.7	0.0	0.0	64.7	100	86	698	31.4	5.0	—
熊谷	さちかぜ	—	4.06	5.19	88	4.0	504	1.9	0.0	0.0	54.2	116	90	695	32.5	4.0	—
	すずかぜ	—	4.14	5.23	69	4.6	495	0.4	0.0	0.0	46.9	100	88	655	29.7	5.0	—

注1. 農技研玉井試験場標肥は平成27～29年度、多肥は平成28、29年度、熊谷は平成28、29年度の調査結果

2. 倒伏・病害発生程度は、0:無～5:甚の6階級評価

3. 整粒重、整粒歩合、容積重、千粒重、外観品質、蛋白質含量は2.0mmの篩選による

4. 外観品質は、1:上の上、2:上の中、3:上の下、4:中の上、5:中の下、6:下の6階級評価

5. 加工適性は、+3(極良)～-3(極劣)の7段階評価、平成28、29年度関東地域新品種等品質評価協議会における実需3社による試験焙煎の平均値、各社の標準品を0とした

表2 育成地(次世代作物開発研究センター)による特性概要

品種名	播性	耐倒伏性	穂発芽性	オオムギ縞萎縮病抵抗性			うどんこ病 抵抗性	赤かび病 抵抗性
				I型	II型	I型+III型		
さちかぜ	I	やや強	極難	極強	極強	極強	中	やや弱
すずかぜ	I	強	極難	強	弱	(やや弱)	やや弱	やや弱

注1. ()は「すずかぜ」参考成績書におけるデータを示す



写真1 「さちかぜ」(左)と「すずかぜ」(右)の粒